

教育委員意見交換会

日 時 令和 7 年 8 月 8 日（金曜） 午前 10 時 42 分～午後 0 時 21 分

場 所 堺市役所 本館 3 階大会議室第 1 会議室

出席者 関百合子教育長 豊岡敬委員 新谷奈津子委員 長田翼委員 大内秀之委員 中村善彦委員

（事務局） 櫻田浩樹教育次長

富岡重幸教育監

北野雅史教委総務部長

渡邊耕太学校教育部長

江川玲子生徒指導課長

峯耕一郎学校管理部長

樋口信征学校給食課長

井村美穂教育センター所長

尾下英夫能力開発課長

矢田潤一スポーツ部長

吉宮尚紀スポーツ推進課企画係長

居谷 達矢教育政策課長

杉本篤史教育政策課課長補佐

楠本奈央子教育政策課企画係長

案 件

- ・第 1 回総合教育会議について
- ・全員喫食制中学校給食の実施状況について
- ・全国学力・学習状況調査の結果及び分析について
- ・第 4 次堺市スポーツ推進計画の策定に係る骨子案のご報告
- ・その他非公開案件 3 件

・第 1 回総合教育会議について

令和 7 年度第 1 回総合教育会議について、概要等を説明。

・全員喫食制中学校給食の実施状況について

本年6月から開始した全員喫食制中学校給食の実施状況及び1学期終了時に実施した生徒対象アンケート調査の結果を報告するもの。

（主な意見）

- ・ 私の校区の中学校では朝の読書時間が設けられていたが、給食が始まってからその時間がなくなったというのを聞いた。また、昼休みに図書室が開いていても給食の準備と喫食で昼休みが短くなったため、図書室が遠いと時間がなく、行くことができないといった話も聞いた。給食が始まったばかりで慣れるまでは仕方がないと思うが、市全体の状況や今後の予定等の見通しはどのようになっているのか。
- 喫食時間を設けたことで、各学校の取組の中で今まで行っていたものを取りやめた例もいくつか聞いている。図書室を利用したいという点については、少しでも喫食時間、休憩時間を確保できるよう学校での取組の啓発を行う。
- ・ アンケートの中におかわりができるのでたくさん食べることができるという意見もあれば、量が少なくて部活動中にお腹が減ったという意見もあるが、ご飯についておかわりは自由なのか。
- 中学生にもなると食べる量の個人差が大きくなってくるので、標準的な分量で配膳した後に個々に応じた量に調整して、余っている分については残食削減の観点からおかわりをしてもらえる方がいいと思うが、学校によって残食量に差があるので、今後、残食を減らす取組と成長に応じた量をどのように考えるかということは課題として捉えている。

- ・ 給食の味が薄いという意見に関しては、味を薄くしている、のは子どもたち自身の健康のためであるということをしっかり子どもたちに伝えることが大事だと思う。そして、給食こそ自分の体にいいものであるということを子どもたちに理解してもらえるような発信に力入れてほしい。
- 今回の調査結果を含めて、ホームページへの公表、広報さかいへの掲載を予定している。給食を薄味にしているのはなぜなのかというところをまず子どもたち自身に理解してもらおうというのが、まさに食育だと考えている。今後、保護者の方を対象に試食会も予定しており、様々ご意見をいただきながらポジティブな発信を検討したい。

・令和 7 年度全国学力・学習状況調査の結果及び分析について

令和 7 年度全国学力・学習状況調査、大阪府すくすくウォッチの結果及び分析について報告するもの。

(主な意見)

- ・ 今回の国語の結果を見ると、これまでは下位層が多かったが、得点の高い層も少ない傾向にあるような気がした。全国と比べると、堺市では最後の一番難しい問題が解ける子どもたちが少ないということは、教え方にも課題があるのでと感じている。個別最適な学びのために、授業についていけない子どもたちへの対応と、さらに能力を伸ばして頑張りたいと思っている子どもたちへの対応をどう両立するのが課題として表れていると思うが、そのような観点での分析はあるか。
- 中学校の数学では、正答率がある程度高い問題においても、つまずきが見られるのではないかと捉えており、基礎的な部分に個別の支援をしていくことで堺市の課題が解消されていくのではないかと思う。小学校の算数では全国との比較では平均よりもさらに上の問題で差が出ており、応用が求められる問題に対応できていないと思われる。基礎力の定着を図るための支援と、さらに伸ばしたいと思っている子どもへの支援を合わせて行う必要があると考えている。本市では個別最適な学びを実現するため、学びのコンパスで授業の考え方を示し、今年度から全校実施している。さらに自分にあった課題をどんどん追求していきたい子どもはそのような学習ができ、個別の支援によって重点的にやりたい子どもにはそういった支援ができるような授業を進めているが、まだまだ課題は多いと認識している。
- ・ 数学も難しい問題は国語力が必要になる問題が多いため、国語をしっかり見ていかないといけないと思う。上位層が少ないという傾向はこれまであまりなかったもので、これまでとは別の対策が必要だと思う。また、昨年と今年でテストが難しくなっているにもかかわらず見られるのが IRT であるため、経年変化を比較する資料があるといいと思う。国語力に関しては、アンケートでの読書習慣が全国よりも大幅に低いため、これを改善することが国語力に間違いなくつながり、さらに他の科目に波及していくと思う。
- ・ 基礎能力は同じコミュニティ内でも高められるが、エースのような存在がさらにスーパーエースになるためには、他校やライバルをいかに自分がしっかりと見据えているかどうかだと思う。能力のある人がより優れた全国の人たちとコミュニティを作ること、また関わり合えるきっかけを作ること、互いに刺激し合い切磋琢磨して、より優れたエースになると思う。
- 企業の方等と実際に関わり合うことで、学力だけではなく、学校で学んだことと自分たちの将来を見据えた内容とのつながりを見せることで、子どもたちがより学びを進めるきっかけになると思う。読書の部分に関しては、各教科の中でどのように学校図書館を活用するのかという部分も考えていかなければならない。併せて情報を習得する手段として ICT の活用についても示す必要があると思う。
- ・ 中学生で読書を全くしない人が全国よりも多い結果になっているが、小学校と中学校で図書室の利用の状況に差があるのではないかと感じている。小学校は比較的図書室を活用する授業が多いが、中学校ではそのような授業がないと聞いた。いい蔵書が配架されていると思うので、子どもたちが中学校でも図書室の利用に価値を見出せるようになればいいと思う。
- 中学校の数値に関しては、真摯に受け止めている。図書室にはいい蔵書が揃っており、子どもたちに興味を持ってもら

えれば、放課後や昼休みの活用も増えると思うので、授業の中での学校図書館の活用について検討したい。

- ・ プロジェクトベースの授業があるとみんなで調べるために図書館に行くようになると思う。本を読みましようというよりも、そういった形で巻き込むようなものを先生方が工夫していただけるといいと思う。プロジェクトベースの授業は深く考えて、自分たちで何かを解決するというものなので、それが全国学力・学習状況調査の難しい問題への改善にもつながっていくと感じた。
- プロジェクト型の授業については、堺 STEAM ブックを活用している。具体的には総合的な学習の時間に活用できる STEAM の視点を取り入れた事例集である。図書館を使って調べる活動もプロジェクト型の授業として増やしていきたい。

・第 4 次堺市スポーツ推進計画の策定に係る骨子案のご報告

現行の堺市スポーツ推進プランの総括を行った上で、市民意識調査の結果及び国の動向、社会的潮流を踏まえ、次期計画の骨子案について報告。

（主な意見）

- ・ スポーツ施設の利用者数が伸びない理由は何か。
- コロナ禍での臨時休館等が要因である。現在利用率では、コロナ禍以前に戻っている。
- ・ アーバンスポーツが今脚光を浴びている。隣接する松原市は子どもたちが練習できるスケートボードパークを整備しているが、堺市では、アーバンスポーツができる施設は十分に整っているか。
- 本市では平成 23 年に原池公園内にスケートボードパークを整備しており、初級者から上級者まで楽しめる施設となっている。他市からの来訪者も多く、今後もしっかり PR し利用促進につなげたい。